

米朝対話はどこまで進むか

2009. 9. 17

立教大学 石坂浩一

1) 米朝間の駆け引き

①米朝対話の糸口

クリントン訪朝

北朝鮮側から勧誘

8. 4～5 訪朝 金正日と3時間半会談 オバマ口頭メッセージ

8. 5 朝鮮中央通信、報道

8. 20 リチャードソン知事、金明吉国連大使と会談

8月下旬 ゴールドバーグ国務相調整官、東アジア歴訪

8 北朝鮮関係者、人道援助に関連し訪米

②中国の働きかけ

7. 27～28 米中戦略・経済対話

8. 17～21 武大偉訪朝

9. 1 金永日外務次官訪中、4日戴秉国国務委員、楊潔篪外相と会談

9. 7 武大偉訪日

9. 16 戴秉国訪朝、姜錫柱第一外務次官と会談

③米朝対話へ

9. 3 北朝鮮国連大使、国連安保理議長に書簡 議長国は米国

* 韓国の人工衛星発射と同様にわれわれを問題視しなかったなら「核実験のようなわれわれの強硬対応も誘発されなかったであろう」

* 「共和国の自主権と平和的発展の権利を乱暴に蹂躪することに利用された六者協議の構図に反対したのであって、朝鮮半島の非核化と世界の非核化それ自体を否定したことはない。朝鮮半島の非核化は徹頭徹尾米国の対朝鮮核政策に密接に関連している」

* 「使用済み燃料棒の再処理が最終段階に至っており抽出されたプルトニウムが武器化されつつある。ウラニウム濃縮試験が成功的に進められまとめの段階に入った」

* 「われわれは対話にも制裁にも対処できるよう準備している」

9月上旬 ボズワース、中韓日歴訪 六者協議のために米朝協議をする

9. 9 ソン・キム、韓国当局と協議 (ロシア次席代表と会談のため訪韓)

9. 10 クローリー国務次官補、米朝協議の用意がある

会談の方式、場所、時間は今後2週間以内に決定する

9. 15 クリントン国務長官、米朝対話確認

2) 北朝鮮と南北

①開城工業団地職員釈放

現代グループ 玄貞恩会長が8月4日に金剛山訪問

8. 10 訪朝 8. 13 職員釈放、金養健と協議

8. 16 金正日と会談 5項目合意

→ 8. 20 北朝鮮、通行制限解除

8. 26～27 南北赤十字会談

8. 29 拿捕船員送還

9. 11 北、開城工業団地賃金問題で要求譲歩表明

9. 16 南北、5%賃上げで合意

②金大中逝去

8. 18 金大中逝去

8. 21 弔問団到着 22 玄順沢統一部長官 23 李明博大統領

代表団は金己男、金養健、元東淵

9. 6 臨津江増水で6人行方不明

9. 9 玄順沢統一部長官、「意図的放流の疑い」と発言

9. 11 警報機作動しなかった事実判明

9. 13 北朝鮮側のダム満水を確認

9. 11 李明博大統領、南北関係は重大な転換期

③北朝鮮の事情

～9. 16 150日戦闘終結

さらに100日戦闘

3代世襲に諸説紛々

7月 後継者問題についての発言中止の指示？

張成沢国防委員をおさえ金正日委員長が再掌握？

後継構図に変更なし？